

第17回森吉山麓高原自然再生協議会議事録概要

【報告事項】

(モニタリング関係)

和田委員	(資料により説明)
会長	樹高生長の結果を見ると、枯れるものは無くなってきているということ よいか。
和田委員	枯れる割合は下がってきている
星崎委員	生長について、場所毎の違いや個体毎の違いはいかがなものか。
和田委員	元々の苗木のサイズや、植え方に差異があるため一概には言えない。 ただし、地域的には南側の方が元々の土壌条件が良かったので生育状況も 良い傾向にある。
村田委員	雪害の調査において、主軸がダメージを受けても萌芽による回復は可能か。 また、雪害を受けやすい苗木の特徴はあるか。
和田委員	折れた下の方に萌芽できれば回復する。すらっとした苗木の方が雪害を受 けやすい。
会長	根元で裂けたような苗木でも萌芽してくるのもあり、全部が死ぬわけでは なく、割と強い。植えた当初は蓄積もないため弱いのが、何年かたつと根に 養分が蓄えられるので萌芽は出てくる。
小松代理	一般の人が見て、林になってきたなと感じるまではどれぐらいの年月が必 要か。
和田委員	森吉の場合は10年ぐらいは必要と思われる。高植え、斜め植えした区画 は良好なものの、植栽間隔が広すぎて林として認識しづらい。
小松代理	観光面からも森吉山まるごと観光プロジェクトの最終年あたりに、人を呼 び込むためにも明確に分かるような場所があればいいと思う。
会長	(植栽木の)中には2mぐらいに伸びている苗木もあり、年間20cmぐら いは伸びていて、だんだん生長してきたなという感じはある。
村田委員	ボーイスカウトで植えた場所が人丈を超えて大きくなっている。
三浦代理	ボーイスカウトで植えた場所はポット苗を植えたはず。
福森委員	1mのポット苗を植えている。
小松代理	森吉山の観光プロジェクトが2年後に最終年度となるので、誘客につなげ ていくことができれば面白いのではないかと考える。
(事業関係)	
西村委員	環境学習として今年は野生鳥獣センターと協働してもらったが、立地上か ら人を呼び込むのが難しい場所である。定期的なイベントとして実施して

	いるが、毎年のように人を呼び込むには、いろいろなテーマ（野鳥観察とか）のイベントで呼び込むこと、参加した人達は植樹を喜んで行ってくれるので、間口を広げて興味を持ってもらうことが大切と感じている。来年度も引き続き協力していきたい。
会長	野生鳥獣センター運営協議会の観察会のリピーター率はどのぐらいか。その中から核となるような人材がでてくればよいが。
西村委員	詳細なデータまでは持ってきていないが、開催の都度、登録会員には連絡している。
	（自然再生基本方針関係）
西村委員	自然再生推進法ができた当初は、各方面へ手厚く支援するという制度を作っているが、現在は自立化が迫られている状況。自立を促進しながらも支援が必要ということであれば訴えていかないといけない。資金がなくなっても続けていくため、地域の核となる人材育成やその他の支援を求めて行く必要があるのではないか。
会長	文面はもっともな内容であるが、具体的なところは見えない。協議会としてどういうことをしてほしいかということを考える必要があり、支援については具体的に考えて行くべき。行政は国も県も長期間継続的に予算をつけていくことは苦手。そうした中でも、再生事業は長期間実施していく事業なのでそこをどう担保していくかということになる。
星崎委員	地元の人の認知を上げていくために、一定の区画を学校に使ってもらうなど、地元の学校とパートナー制度を働きかけてもよいのではないか。
村田委員	行政の支援も必要だが、民間の企業でも再生や外来生物駆除にお金を出してくれる企業はある。行政が主体的に動いて企業などの協賛をもらうとか、民間がやっているところに人を送り込むような方法も考えられる。資金は工夫すれば調達できるが、人集めがやっていて難儀するところ。
会長	今の事業費の申請方法はどのようになっているのか
事務局	国に他の自然公園施設と一緒にした5カ年計画を提出して承認してもらい、あとは毎年の予算に応じて要求していくものとなっている。
西村委員	5カ年の年次計画に基づいて申請してもらっているが、5カ年の計画も毎年変わるところもあるし、予算の増減もあるので修正しながら申請してもらっている。
	森吉は国指定鳥獣保護区であるため、秋田県が行う事業は現在は正式メニューにはなっていない。ある程度目処が立ったところで区切りをつけるよう依頼が来ているところ。
会長	各協議会が求めるものは大型の予算ではないと思われる。
西村委員	交付金は国定公園も含めた施設整備の予算となっていて、維持管理やソフ

ト面への予算ではない。

会長 説明資料のポイント3では、国もソフト事業を推進するとなっているので、どう制度設計してくるのか。例えば秋田県の森林環境税のように提案して採択するような仕組み、額が少なくても小回りのきく予算、支援が必要。人集めやPRのファシリティ、行政のタッチできないところなど、秋にパブリックコメントがあるので会としてまとめて意見を出した方がよい。アイデアや知恵を出してもらいたい。

【協議事項1】平成26年度植栽事業について

会長 植栽はあと2年ほどという説明だったが、今後どのぐらい実施する必要があるのかをまとめておく必要がある。植栽に用いる苗木についてはどのようにしていたか。

事務局 苗木は現地で集めて森林技術センターで育苗したものと、現地の苗畑で育成したもの。不足する部分は山取としている。

星崎委員 来年度の植栽に用いる苗木はどうするのか。

事務局 森林技術センターで育苗しているものがまだ残っており、それらと山取で対応したい。平成23年度に播種したブナはまだ使用するまで生育はしていない。

会長 昨年、ブナが豊作だったが採種はしているか。

和田委員 自力で集める部分は集めたが、豊作の予報ではなかったので事業に反映できなかった部分はある。

村田委員 現地で集めたものは苗畑には播種している。

星崎委員 前にウサギの食害がひどかったりして補植したところはどうなっているか。

事務局 2箇所補植は実施したものの、その後の追跡まではできていない。

【協議事項2】平成26年度自然環境学習について

西村委員 将来を見通して、あと2年間の植樹事業が終わった後に、どういった作業が必要で、どういう応援態勢が必要なのかを想定しておく。そのターゲットや狙いを持たせて実施することが効果的なのではないか。

事務局 地元の方々の認知度が低いため、地元以外から現地に活動しにきている団体の力を借りるなどして情報を発信していきたい。

館山委員 ダム広報館ではダムのPRもしながら、奥森吉の自然もPRしていきたいので積極的に活用していただきたい。当所のホームページで、ダム自体のイベントも含めて奥森吉に関連するイベントを全て掲載してもよいと考えており、1月から10月の間のイベント一覧があるのでそこでも紹介して

	いきたい。
佐々木委員	ダム広報館の利用者は年間どれぐらいなのか。また、リピーターや年齢構成はどうなっているか。奥森吉のイベントも若い人に参加してもらいたいところ。
舘山委員	平成24年度は2万人、平成25年度は1.5万人ほど。平成24年度はダムが完成した年でもあり利用者が多かったものと思われる。 リピーターについては把握していないが、ダムでしか入手できないダムカードを集めているマニアもおり、そうした需要はある。 利用者に対するアンケートでは、県外からの利用者が増えており、destinationキャンペーンの効果が出ているのではないかと思われる。 年齢構成については50代以上が多いが、ダムでのイベントには若い人の参加もある。
佐々木委員	県外の方の方が食いつきがよい。今年は福島から2回ほど参加者が来てくれているので、自然の魅力はあるはず。
舘山委員	広報館にも被災地からの利用者もいた。
佐々木委員	ホームページもツールとして活用するのはよい考え。
舘山委員	よくあるようなPDFファイルの掲載では検索エンジンにヒットしないので、当所では検索エンジンにヒットするように掲載している。森吉山荘さんでもイベントに併せて企画されてホームページで発信もしている。
佐々木委員	ダム管理支所において活用できる予算はないか。
舘山委員	予算はなく、水源地ビジョンの実施でも問題となっている。不足しているところは県や市に協力してもらっている状況。
佐々木委員	協議会も長くやっているが、人的な問題が大きく、決まった人と同じ作業ができないでおり、目を向けさせることが難しいと感じている。
会長	フォーラムについて、今後の作業日程はどうなっているか。
事務局	大まかな内容は3月までに決め、日程も8月から10月の間で絞ってきめたい。環境省や北秋田市のイベントとも関連させたいと考えているので、その部分も調整していきたい。
会長	できるだけ早く関係者で情報が集まるように年度内に話し合いをした方がよい。10月は他のイベントが目白押しであり、県外からの参加も考えると土日で実施がよいのではないか。そうなれば宿泊が伴ってくるし、内陸線との連携もできるのではないか。
事務局	早めに打合せを実施したい。
会長	28年度以降、ボランティアによる植樹や育樹、生長観察の呼び水になるようにしてもらいたい。
佐々木委員	雨天で中止とはならないか。遠方から来る方の対応も検討してもらいたい。

事務局 散策については場合によっては中止となることもあるが雨天でも影響の少ないコース設定を検討したい。

村田委員 植樹した後どうしたら定着していくかだが、今の事業は「事業」なのでいわば県と業者で進んでいる状況。自分たちのような団体が植樹しようとするところはススキ原である上に、植えた人が見に来るとしてもランダムにやってくるし、植栽木に名前があって見て分かるようにしないといけない。名前を木に書いても数年で消えてしまうが、現地を見て自分が植えた木が分かると植えた人はとても喜ぶので次につながっていく。しかし、その環境を作り出すのがとても大変。そうはいつでも、関心があるのは植えた直後なので、見てわかるように少し大きな木を植栽したり、その後の手入れも必要となる。

三浦代理 昔植えたポット苗もかなりの部分がだめになっている。キャンプ場の法面にかなり植えたことがあった。

和田委員 今後については、保育よりも補植をメインで手当していけばよいと考える。植えた後の状況調査を全面的にイベントとしてやってみてはどうか。いいきっかけ作りになるし、参加者が手を動かすことをやったほうがよい。その際に自分の木を決めてもらうというのもよいのではないかと思う。

会長 また、2年後に現在の実施計画が終わりとなるが、その前に今までやってきたことの総括は必要となるので検討してもらいたい。

(以上)